

# TA経験者による体験談

菅澤 貴之

学習支援・教育開発センター

2017年4月7日(金)

# 自己紹介

- 氏名：菅澤 貴之（すがさわ たかゆき）
- 研究分野：教育社会学、社会調査法
- 研究テーマ：大学中退者のキャリア形成
- 学歴：同志社大学文学部社会学科を卒業後九州大学大学院比較社会文化学府を単位修得退学
- 職歴：大阪商業大学、九州大学、奈良先端科学技術大学大学院での勤務を経て2016年4月より同志社大学に着任

# 私のTA歴

- 九州大学全学教育「社会性・人間性」  
→大規模クラス授業の運営補助(出席管理等)
- 九州大学文学部社会学演習  
→3・4年生合同ゼミで卒論のアドバイスも経験
- 九州大学大学院社会学演習  
→留学生のレジュメ作成サポートを経験

自分が同志社大学に在学していた頃は、TAがついていた授業を経験したことがなかった。

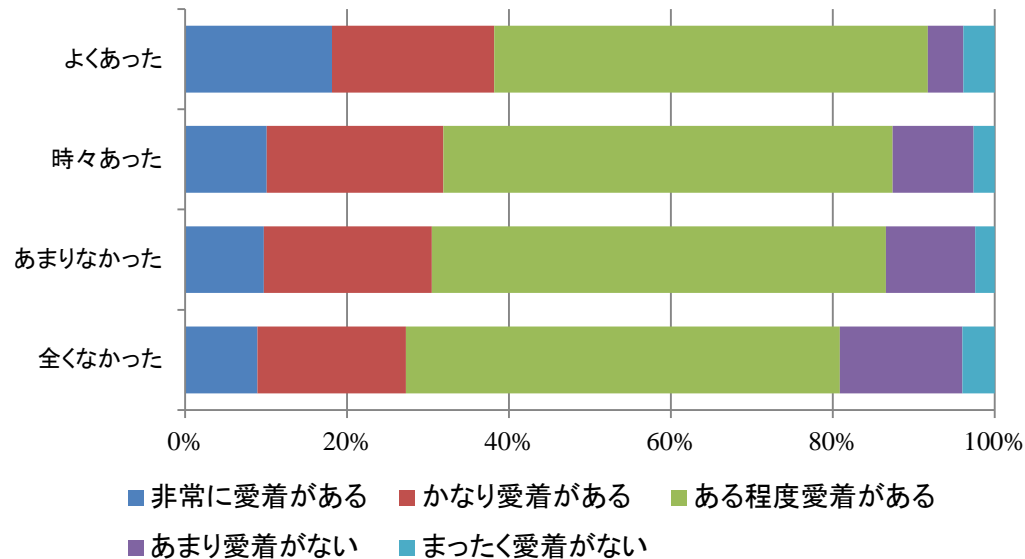
# TAの意義と責任

- 博士後期課程大学院生にとっては、教育経験を  
つむ貴重な機会
  - 教員採用公募書類の職歴欄にもTA歴の記入を求める大学も増えている(教育経験の一部として評価されている)
- 大学から雇用されていることを忘れずに！
  - 遅刻・早退はもつてのほか  
教員とともに講義を作り上げるパートナーとして  
主体的に行動する

# 学生にとってのTA

- 学生の立場から見ると、TAは身近な先輩
  - 担当科目については十分に講義内容を理解  
事前にしておく
- ありがちなミス
  - 上から目線で教えてあげるという態度で接する
  - 講義の理解が浅い初歩的な質問に対して、小馬鹿にしたような態度で対応してしまう
  - 教員に相談せずに勝手に行動する(トラブルのもと)

# TAとの接触頻度と愛校心の関係



- 学生調査の結果によると、TAとの接触頻度が多いほど、愛校心が高い

(2015年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」1年次調査より)

→皆さんの対応が卒業後の同志社大学に対するイメージ(愛校心)を決定するかもしれない

# 最後に

TA経験は、一般的な学生アルバイトと比較して、仕事の責任が重いかもしれませんが、その分、やりがいもあります。

責任を気負い過ぎず、TA・研究活動を通して充実した大学院生活を送ってください。